

☆放課後子ども教室☆

夏から秋、そして、冬へと季節の移ろいを色濃く感じられる2学期も終わり、子どもたちにとっては待ちに待った冬休みが始まります。大きなけがや事故なく、楽しい冬休みを送ってくださることを願うばかりです。

11月後半の放課後子ども教室では、カラフル葉っぱのしおりづくりや放課後ミニ実験、オニごっこやバスケットボールなど体を使って遊ぶプログラムを行いました。秋の間に子どもたちと一緒に拾い集めた黄色や赤に色づいた葉っぱを押し葉にし、ラミネート加工をしてしおりを作り、放課後ミニ実験では重曹・クエン酸・粉砂糖で手作りラムネに挑戦。特別なものではなく、自分たちの身近にあるものが子どもたちの遊びの幅を広げてくれることを、改めて実感しました。低学年ではカタキ(個人戦のドッチボールのようなもの)、高学年ではバスケットボールのプログラムの中で、子どもたちのアイデアをもとにルールを変えるという試みをしてみました。遊びの中にもルールは必要です。既存のルールをベースにみんなが楽しめるルールを、自分たちで新たに作るという作業は、見ている私たちがワクワクしました。今回は短時間のプログラムでしたが、集団遊びが形になってきた今、時間の使い方や遊びの内容を決めるという、次のステップにもチャレンジしてみたいと思います。



12月のプログラムでは、リンゴのおやつ作りとして、アップルパイ風リンゴ春巻きを作りました。ここ数年、札幌で民間の学童を運営する知人へハスカップを送っています。そのお礼として、この時期、札幌にある農園で育ったリンゴをいただくという交流がつづいており、お互いに子どもたちのおやつの材料として活用させてもらっているのです。今年も初夏に送ったハスカップが、美味しいリンゴになって返ってきました。送られてきた箱のふたを開くと、さわやかなリンゴの香りが広がります。リンゴを細かく刻み、バターと砂糖で煮て、それを春巻きの皮で包んで揚げるといった簡単なおやつ作りを、みんなで楽しみました。「美味しい!もっと食べたい!」と子どもたちにも大人気です。札幌の民間学童に通う子どもたちにも、ハスカップを使ったおやつは好評なようで、ハスカップを通じて厚真町というまちを知るきっかけになったという話も聞いています。美味しく楽しいひと時をつないでくれたハスカップに感謝です。



12月には毎年恒例のしめなわづくりも行いました。厚真でとれたお米の稲わらをいただき、今年一年の感謝と来年も良い年になるよう願いを込めて、世界で一つだけのしめなわ飾りを作ります。自分で作ったしめなわを飾って、新しい年を清々しく迎えてほしいと思います。

